

各位

残暑の候、平素は児童館事業にご理解ご協力ありがとうございます。

暑い暑い夏休みですが、毎日暑さとの闘いです。熱中症対策とコロナ対策をしながらですが、子どもたちは元気にドッチボールやサッカーに明け暮れています。

その対応を職員が一生懸命してくれているからこそ、今年は高学年のチームワークも良くなってきました。私も毎日ドッチボールの審判に呼ばれます・・・「容赦なく、ジャッジする姿がかっこいい」とおだてられて・・・つい誘いに乗ってしまいます(笑)

今年は保護者会さんからグラウンド遊びが少しでも快適に過ごせるようにと、大きなテントと扇風機を頂きました。大きなテントや扇風機の設営もなかなか出来なくて、四苦八苦していました。地域の方々も助けて頂きました。又職員体制が厳しい時などは、保護者の方が「手伝うよ!」と来て下さり、学年毎のお出かけと、昼食時の見守りなど、皆さん本当にお忙しいのに学童っ子のためにご協力頂きました。感謝感謝の毎日でした。本当にありがとうございます。

感謝と言えば、以前会合で、「感謝の反対語は何だと思えますか?」というお話を聞いたことがあります。皆さん感謝の反対は?・・・何だと思えますか?・・・感謝の反対は「当たり前」だそうです。なるほど・・・と思いました。

私たちが子どもたちに「感謝」を教えるのはなかなか難しいのですが、何でも当たり前前だと思っていないか?と感ずる場面は多々あります。

物を借りたり、何かをしてもらったりしても、ありがたいという言葉が出てこない人も多いように思います。何でもしてもらうのが当たり前、出来なかったら「やって〜」と直ぐ言うし、やってももらえない、自分の思い通りにならないと、すねたり怒ったり・・・なんてことが日々ありますが、私は、子ども達には、何でも当たり前ではなく、物一つ動かすにしても、誰かがやってくれていることに気づいて欲しいと思っています。そして、ひとつでも自分で出来ることを増やして欲しいです。それが成長です。沢山の大人の見守りの中、子ども達が元気に過ごしている。集団ですから規制もありませんが、満面の笑顔を見ると疲れも吹っ飛びます。

秋にはえがおワールドも開催されることになりました。これも子どもや地域の方々のためにやろう!と準備をしてくださっている方がいるからこそですよ〜感謝!

令和四年九月号のお便りに添えて

社会福祉法人 積慶園

京都市嵯峨野児童館

館長 飯吉昌子